第151回神奈川大学日本常民文化研究所研究会

酒を造る家、酒を選ぶ人びと

―近代鹿角における関善次郎家の酒造経営と地域社会―

大島朋剛氏

神奈川大学日本常民文化研究所 所員

経済学部 教授

日時：2026年12月16日（水）17:30～19:00

開催形式

対　　面　：横浜キャンパス9号館12室

オンライン：Zoomミーティング

※ 対面にて参加の場合は申込不要

参加無料

オンライン参加　申込フォーム

お申込み後、追ってIDとパスコードをメールにてお送りします。

主催：神奈川大学日本常民文化研究所

酒を造る家、酒を選ぶ人びと

―近代鹿角における関善次郎家の酒造経営と地域社会―

本報告は、明治末から昭和戦前期の秋田県鹿角郡を対象に、地主経営を兼営する酒造家・関善次郎家の経営実態を明らかにする。

同家は醸造技術の改良に取り組み、1926年には全国酒類品評会で優等賞を受賞したが、その成果は必ずしも販売上の優位に結びつかなかった。一方、鉱山町の飲食店・小売業者との継続的な取引や、農家が玄米を清酒と交換する「米酒交換」は、地域に根ざした販路として機能していた。旧関善酒店文書をもとに、酒が選ばれる条件が販路ごとに異なっていたことを示し、地方酒造業の存立を支えた地域社会との多様な結びつきを浮き彫りにする。

